

# 京都市感染症週報

## ◆ 今週のコメント

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は3.56で、過去5年平均値(4.97)を下回っていますが、今シーズン(平成19年～20年)で最も多くなっています。
- ・ 百日咳の報告が2例(3歳, 8歳)あります。平成19年第49週以降、先週(第1週)を除き、連続して報告がありますので、今後の動向にご注意ください。昨年(平成19年)の年報告数は35例で、過去7年間(平成12年～平成18年)の年推移(17例～39例)をみると、平成12年の39例に次いで多くなっています。
- ・ レジオネラ症の報告が3例あります。推定感染経路は、水系感染2例、塵埃感染1例で、年齢は全て65歳以上となっています。昨年(平成19年)の年報告数は20例と、全数報告感染症の対象となった平成11年4月以降の年報告数(0～8例)と比べて顕著に多く、全国でも同様の傾向です。

## ◆ 今週のトピックス:〈感染性胃腸炎〉

- ・ 定点当たり報告数は10.12で、年末年始で休診している医療機関の多かった第1週を除き、第50週以降、過去5年平均値を上回る状態となっています。詳細は、トピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

(性別, 年齢, 症状, 推定感染地域, 推定感染経路の順に掲載。ただし, 結核は除く。)

- ・ 二類: 結核 9例(喀痰塗抹陽性 5例) 【1月以降の累積報告数 11例(喀痰塗抹陽性 5例)】
- ・ 四類: レジオネラ症(肺炎型) 3例

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	3.56	242
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	10.12	415
	② 水痘	1.46	60
	③ 突発性発しん	0.46	19
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.32	13
	⑤ 手足口病	0.24	10
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

### 病原体情報

(検体名は, 紙面の都合上, 咽頭ぬぐい液をNP, 糞便をFC, 髄液をSF, 尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
RSウイルス(1)	かぜ症候群(第49週)	NP	ノロウイルスGII(4)	感染性胃腸炎(第51・52週)	FC
RSウイルス(1)	感染性胃腸炎(第51週)	NP, FC	ノロウイルスGII(1)	下気道炎(第52週)	FC
RSウイルス(1)	下気道炎(第51週)	NP			
RSウイルス(4)	RSウイルス感染症(第49～51週)	NP			

## 【次ページ以降の主な内容】

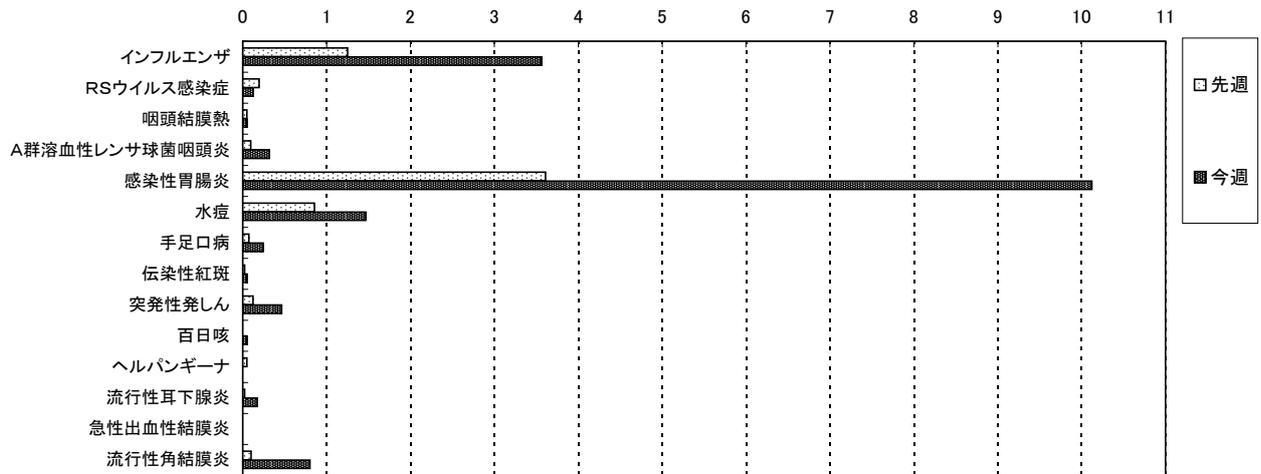
発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:〈感染性胃腸炎〉

付表(疾病, 保健所別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

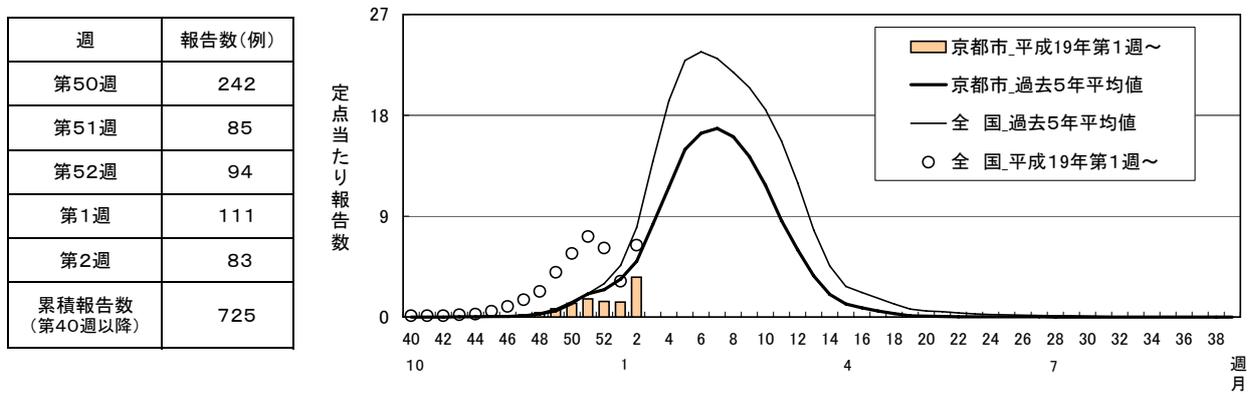
(注) 京都市のデータは, 平成20年1月21日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在の保健所での集計で, 患者の住所を示すものではありません。  
病原体情報は, 病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第2週)と先週(第1週)の定点当たり報告数の比較

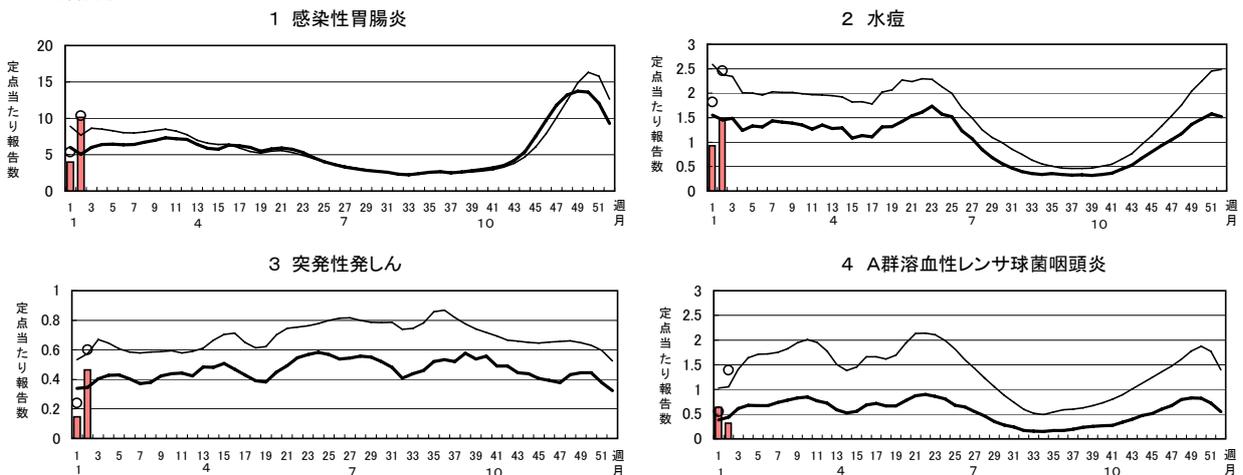


## 2 インフルエンザの定点当たり報告数の推移



## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

